

みなみ
南浦町
ちよう

「天の岩戸」 神話生む

天香久山のふもとに広がるこの町には、山の北に占いの神を祭る天香久山神社が、山の頂きに雨の竜王を祭る国常立（くにのとこたち）神社が、南にも天照大神（あまてらすおおみかみ）を祭る天岩戸（あまのいわと）神社が鎮座しています。

このうち天岩戸神社には、天照大神が隠れた「天の岩戸」だという岩穴があって、これを拝むかたちをとるため神殿というものが見当たりません。古事記・日本書紀に登場する「天の岩戸」の神話は多分、ここから生まれたのだらうという識者もいます。

江戸時代に国常立神社を訪れた国学者・本居宣長が、山頂からの眺めを「よもの山々里々をうちみたるけしき」「いはんかたなくおもしろきに」と、旅日記に書き残して大和国中の景色を愛でています。古代から「天香久山」とともに生きてきたのが、この町だと云えるようです。

江戸時代初期に「南裏村」（慶長郷帳）と呼ばれた村は、やがて「南浦村」となり明治を迎えます。明治二二年に香久山村の大字になったあと昭和三一年桜井市の大字に編入され、同年一〇月に「檀原市南浦町」となりました。